



今回の紙面

- ◆年頭のごあいさつ ◆地域医療最前線 NO. 52 《紀川純三 院長》
- ◆看護師さんのページ NO. 32 《三登早苗 看護部長》 ◆研修医のページ NO. 35 《松尾諒一先生》
- ◆平成 25 年度第 3 回島根県地域医療支援会議 ◆平成 25 年勤務医師実態調査
- ◆平成 25 年看護職員実態調査

年頭のごあいさつ

島根県健康福祉部医療政策課

課長 立石 正計

新年 あけまして



ご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。本年も変わりがなく、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、島根県では医療従事者の不足や医療制度改革などにより、地域医療をめぐる環境が大きく変化する中で、「安心して暮らせる島根」の実現に向けて適切な医療提供体制の確保に努めているところです。特に平成 21 年度から国の地域医療再生基金を活用した地域医療再生計画に基づき、医学生や看護学生への奨学金の拡充をはじめ、ドクターヘリの導入（平成 23 年 6 月）、「しまね地域医療支援センター」の設置（平成 23 年 8 月）、全県医療情報ネットワーク（まめネット）の整備（平成 25 年 1 月）など各種施策を実施してまいりました。

また、昨年 3 月には「しまね地域医療支援センター」を一般社団法人化し、大学、医療機関、県医師会、市町村、

県が会員となって組織体制を強化し、オールしまね”で若手医師等が安心して県内の医療機関で勤務できるようにサポート体制を整えています。ドクターヘリについては、昨年 5 月から中国 5 県の連携により広域運航を開始し、特に県西部では、広島県や山口県のドクターヘリがいち早く現場に駆けつけても、救命率の向上につながっています。



一方、医療従事者の充足率は依然として厳しい状況にあります。昨年 10 月に実施した「勤務医師実態調査（対象：全病院と公立診療所）」により、県全体の常勤医師数は 804 人（対前年 ▲1 人）で前年と変わらない状況ですが、地域別では、雲南圏域や大田圏域、益田圏域などで、診療科別では泌尿器科、眼科、皮膚科などで特に医師の充足率が低い状況です。

こうした中で、各市町村、各医療機関の皆様方におかれましては、医学生や看護学生に対し、独自の奨学金制度を設けられたり、地域医療を守るために活動する住民団体と協働で研修会や交流会を開催されたりするなど、地域医療の確保に最大限のご努力をされて

いることに対し深く敬意を表します。県といたしましても、大学医学部や看護職員養成施設はもとより、医療機関、市町村など関係機関と連携し、医師や看護職員など医療従事者の養成・確保に積極的に取り組むとともに、適切な医療提供体制の確保により一層努めてまいります。



松江市立病院

院長 紀川 純三



松江市立病院は、病床数 470、27 診療科を有し 90 名余りの医師が勤務する山陰の中核病院のひとつです。平成 17 年の新築移転にともない、消化器病センターや救急病棟を設置、免震構造を持つ大規模災害時の拠点施設として地域医療に貢献しています。同時に、宍道湖を眺める環境や入院・外来診療に関するアメニティにも十分な配慮がなされています。また、総合病院としては全国有数の設備を有する緩和ケア病棟の設置や島根県屈指の日本緩和医療学会専



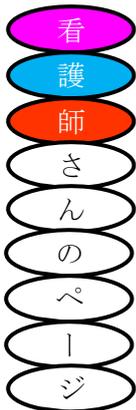
門医育
成機関
の認定
を受け
ていま
すので、
情熱の

門医や緩和ケア認定看護師を含む緩和
ケアチームの活動など、「ホスピス・緩
和ケア」の充実にも力を入れていきます。
その結果、緩和ケアに関する付加機能
評価を含む日本医療評価機構認定や地
域がん診療拠点病院の指定を受けてお
ります。また、がん診療連携拠点病院
として高度ながん診療体制の整備を進
めてまいりましたが、がんセンターを
開設し、検診から外来放射線療法や化
学療法、緩和ケアさらには相談支援ま
で幅広いがん医療が行える施設を目指
そうとしております。

当院の使命は、高度の医療体制を確
保し、地域医療機関との連携を図るこ
とにより、療養生活の質の維持向上を
図るとともに最新の情報や研修の場を
提供し、さらには、各種専門医をはじ
めとする医療専門職を育成することに
あります。臨床研修病院としては、定
員8人のフルマツチと大学からの初期
研修医を受け入れています。また、多

ある若手医師の研修を歓迎します。

最適な医療を提供するためには、地
域完結型医療の推進が不可欠です。平
成25年12月より松江市に医療統括監
が設置され、医療・介護・福祉のネッ
トワーク構築と関連施設の連携強化が
期待されます。当院の役割をさらに明
確にして、病院機能の充実強化、他医
療機関との連携を進め、より質の高い
サービスの提供を行うことにより、地
域医療への貢献を果していきたいと考
えております。



NO. 32

鹿島病院

看護部長 三登 早苗

松江市の北、美しい日本海にほど近
い田園の一面に、慢性期の療養を担う
鹿島病院があります。

一般特殊疾患病棟、回復期リハビリ
テーション病棟、慢性期医療療養病棟
の各病棟は総計で180床。

「鹿島病院を中心に地域と連携して、
良質な慢性期医療を確立します」との
法人基本理念の下、看護部職員120
名で、個人の尊厳を護り全人的支援を
行うことを看護部理念に掲げて毎日奮

餅つきの様子



聞してい
ます。
急性期
での治療
は終了た
けれど自
宅へ退院
する為に

はまだまだ入院治療を継続しなくては
ならない方、終末期・緩和ケアが必要
だけれど在宅では療養が困難な方、積
極的なリハビリテーションで心身とも
に機能向上して在宅へ復帰したい方、
日頃は在宅で療養しているけれど急病
で入院が必要になった方々の療養を支
援しています。

法人は病院の他に通所サービスや居
宅支援事業所、訪問看護事業所も有し
ており、訪問診療も併せて多職種の総
合的なチーム力で地域貢献を目指して
いるところです。多職種チームの一角
を担う看護部としては、呼吸器装着患
者の外出支援やレスパイト受け入れ、
終末期・緩和ケア患者の外出支援、き
め細やかな生活リハビリテーション支
援や在宅復帰支援などに日々取り組ん
でいます。

20代から60代まで、広範な年齢層
の看護部職員ですが、早くからの電子
カルテ導入もあってチーム連携力は高

く、近年ラダーによる学習体系やIT
によるオンデマンド研修も活用を始め
ました。今年度は病院の助成制度を活
用して初めての認定看護師も誕生しま
した。

毎年受け入れている中学・高校生の
看護師体験学習では「ぜひ将来は医療
従事者になりたいと思った」「笑顔やふ
れあいでの癒しを感じた」「優しい言葉
かけや視線を合わせることの大切さを
学んだ」「生命の在り方を深く考える機
会になった」などの感想があり、職員
の思いが十二分に伝わっているようで
嬉しい限りでした。将来に心強い仲間
が増えることは大歓迎です。

急性期病院からの転入院や地域の開
業医からの紹介入院など年々入院数
が増え、看護部職員の多忙度は増して
いますが、七夕やクリスマス、正月行
事など、療養される方々の感性や日常
の生活を大切にしながら看護に力を尽
くしていきたいと思っています。
近くにお越しの際にはぜひお立ち寄
りください。



浜田医療センター

1年目研修医 松尾 諒一



私は県西部の中核病院である浜田医療センターにて初期研修をさせていただいています。

浜田といえば島根のおじさまで有名なシロイルカが見られるしまね海洋館アクアスなどがあります。また、石見神楽は一年を通して観ることが出来ます。

現在浜田医療センターには初期研修1年目の医師は私一人だけであり、研修の初めには不安を抱えスタートしました。しかし、2年目の研修医や指導医の先生方、コメディカルの皆さんの指導、アドバイスを支えられ研修生活を送ることができ、うれしく思っています。

当院は、県西部地区では唯一の救急救命センター（3次）を備えており、Common diseaseから重症疾患、急性期から慢性期まで経験することが出来ます。臨床研修プログラ

ムも非常に自由度が高く、地域医療では診療所での研修や島根県外での研修を行うことも出来ます。

当院を訪れる患者さんの特徴としてはやはり高齢者の方が多いです。これから日本は超高齢社会を迎えようとしています。その中で研修していくことは、先々の医療を考える上で貴重な経験となると思います。

さて研修医が一年間を通して経験するものとしては救急外来があります。救急外来では、まず研修医が問診を行い必要と思われる検査や処置の指示を行います。そして結果が出たら各科の担当医師にコンサルテーションを行い、指導医の先生方と共に診断治療を行います。もちろん全て研修医がこなさなければいけないわけではなく、分からないことがあればすぐに上の先生方に聞ける環境にあります。

初めは右往左往するのみでしたが、先生方の診療される姿を見て、また優しく指導していただきながら、少しずつですが医療人として成長していけるよう頑張っています。

まだまだ医師としては未熟であり、おごることなく研修生活を送り、山陰に貢献できる医師となれるよう努力していきたいと思えます。

平成25年度第3回
島根県地域医療支援会議

平成25年12月25日（水）、平成25年度第3回島根県地域医療支援会議をサテラポータルむらこも（松江市）において開催しました。今回は、県内7圏域の代表から、義務年限内自治医科大学卒業医師の派遣要望をお聞きするとともに、県からも「勤務医師実態調査」と「看護職員実態調査」の結果により、県内の医療情勢が引き続き厳しいことを報告しました。

派遣要望数はここ数年間では最も多い33名となり、医師不足が深刻なことで、総合的な診療能力を有する自治医



科大学卒業医師への期待の大きさを実感しました。今回いただいた要望を受け、来年度の派遣計画案を検討し、次回の地域医療支援会議でお示しする予定です。また、県内の公立・公的病院や地域医療拠点病院の院長からは近況報

告をいただき、各病院が医師等医療従事者が充足しない中で地域医療の確保に尽力されている状況（例：雲南市立病院の地域総合診療科設置、大田市立病院の大田総合医育成センター設置、益田赤十字病院のドクターヘリ活用、隠岐病院の地域医療支援ブロック制度活用）のほか、地域枠や奨学金の貸与を受けた医師の県内定着に関するご意見などをいただきました。

【医療政策課 神村】

平成25年勤務医師実態調査・
看護職員実態調査

島根県では、このたび島根大学医学部、しまね地域医療支援センターと合同で、県内の全病院と公立診療所を対象に勤務医師実態調査（平成25年10月1日現在）を行いました。

また、県内の全病院を対象に看護職員実態調査（平成25年10月1日現在）を行いました。

各調査結果の詳細は、医療政策課ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

平成25年 看護職員実態調査

1 調査の目的

第7次島根県看護職員需給見通し(H22.12)によると、需要数が供給数を上回る状態が中期的に継続する見通しであるため、今後の島根県における看護職員確保対策の基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の概要

- (1) 調査期日 平成25年10月1日現在
- (2) 調査対象 県内に所在する病院(53病院)
- (3) 回答状況 53病院(100%)
- (4) 調査条件 必要数は、現行の診療体制を基本とし、平成26年4月1日に必要な人員。現員数は、調査期日現在の人員とし、非正規雇用職員については、1週間の当該施設の看護職員の通常の勤務時間により、常勤換算。

3 調査結果の概要

(1) 必要数・現員数・充足率(正規雇用・非正規雇用)

必要数 : 6,280人(前年比+26人)
 現員数 : 6,071人(前年比+64人)
 うち正規雇用職員 : 5,875人(前年比+80人)
 差引不足数 : △209人(前年は△247人)
 充足率 : 96.7%(前年比+0.7%)

[病院が看護職員の増を必要とする主な理由]

- ・夜勤体制の強化(2人体制→3人体制 など)
- ・夜勤回数の減少(月平均夜勤日数8日以内 など)
- ・有給休暇取得、時短勤務などの勤務環境の整備 など

(2) 採用数(H24.4.1~H25.3.31)(正規雇用)

採用数 : 496人(前年比△4人)
 うち新卒者 : 273人(前年比△11人)
 ・「採用数」内訳
 新卒者273人(55.0%)、施設間異動191人(38.5%)、未就業から32人(6.5%)
 ・病院の採用計画に対する採用実績は81.2%(前年比+4.5%)

(3) 退職者数・離職率(H24.4.1~H25.3.31)(正規雇用)

退職者数 : 395人(前年比+40人)
 うち新卒者 : 21人(前年比+10人)
 離職率 : 6.9%(前年比+0.6%)
 うち新卒者 : 7.7%(前年比+3.8%)
 (注)施設間異動者を含む

平成25年 勤務医師実態調査

1 調査の目的

医師の地域や診療科の偏在をはじめ深刻化する医師不足の実態を把握することにより、今後の島根県における医師確保対策の基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の概要

- (1) 調査期日 平成25年10月1日現在
- (2) 調査対象 県内に所在する病院(53病院)及び公立診療所(41診療所)
- (3) 回答状況 53病院、40診療所(1診療所休止中)
- (4) 調査条件 必要数は、現行の診療体制を基本とし、平成26年4月1日に必要な人員
 ・現員数は、調査期日現在の人員とし、非常勤医師については、1週間の当該施設の医師の通常の勤務時間により、常勤換算
 ・現員数は、初期臨床研修医を除く

3 調査結果の概要

※島根大学医学部附属病院は、医育機関のため、集計の対象外とする

- (1) 必要数 : 1,196.5人(前年比△7.1人)
- (2) 現員数 : 930.0人(前年比+3.5人)
 うち常勤医師数 : 804.0人(前年比△1.0人)
- (3) 充足率 : 77.7%(前年比+0.7ポイント)

(4) 二次医療圏別

単位:人 %

区分	年	全県	松江	雲南	出雲	大田	浜田	益田	隠岐
必要数	H24	1,203.6	449.9	82.8	266.1	90.8	170.8	111.4	31.8
	H25	1,196.5	442.6	83.4	265.3	88.3	173.8	110.9	32.2
	増減	△7.1	△7.3	0.6	△0.8	△2.5	3.0	△0.5	0.4
現員数	H24	926.5	357.2	52.8	221.1	56.0	123.7	86.9	28.8
	H25	930.0	365.9	52.0	220.2	52.9	126.7	83.2	29.0
	増減	3.5	8.7	△0.8	△0.9	△3.1	3.0	△3.7	0.2
常勤医師数	H24	805.0	324.0	39.0	197.0	45.0	104.0	70.0	26.0
	H25	804.0	333.0	37.0	196.0	43.0	103.0	66.0	26.0
	増減	△1.0	9.0	△2.0	△1.0	△2.0	△1.0	△4.0	0.0
充足率	H24	77.0	79.4	63.8	83.1	61.7	72.4	78.0	90.6
	H25	77.7	82.7	62.4	83.0	59.9	72.9	75.0	90.1
	増減	0.7	3.3	△1.4	△0.1	△1.8	0.5	△3.0	△0.5

- (5) 診療科別充足率 : 皮膚科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・救急が70%未満

二次医療圏別 : 松江で救急、大田で整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科、浜田で救急、隠岐で耳鼻咽喉科・麻酔科が20%未満

- (6) 女性医師 : 常勤医師に占める割合は、16.6%(前年比△0.5ポイント)

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー(県負担)を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040

E-Mail iryuu@pref.shimane.lg.jp

ホームページ :

島根の医師確保対策

検索

